

平成 29 年度 第 1 回総合教育会議 会議録

日 時：平成 29 年 8 月 3 日(木) 14 時 00 分～16 時 00 分

場 所：南箕輪小学校 会議室

<出席者>

村長	唐木 一直	
教育長	清水 閣成	
教育長職務代理者	三澤 久夫	
教育委員	清水 道直	
教育委員	林 百代	
教育委員	出羽澤 和子	
南箕輪小学校長	熊谷 国彦	
(事務局)		
教育次長	伊藤 弘美	
学校教育係長	宮下 裕司	
学校教育係(記録者)	百瀬 亜紀	以上 10 名

<傍聴人> 0名

1 開 会

<教育次長>

これから平成 29 年度第 1 回総合教育会議を始めます。宜しくお願いいたします。

2 あいさつ

(1) 村長

教育委員会制度が改定され、本村でも昨年 10 月からこの制度に基づいて動いてきている。

また、それに先立ち村の「教育大綱」を調べました。本来ならば、総合教育会議は総務課で主管しなければならないところですが、事情により教育委員会で担っていただいている。このことについては、今後考えていかなければならない。

本日は、児童数生徒数に伴う施設の改修、子育てに関する現状と課題の 2 つの分野でご意見をいただければと思っている。施設不足については、徐々に解消してきており、ここ何年かで完全に解消したいと考えている。児童生徒はまだまだ増えると思われるが、人口増については若干落ち着いてきているので、極端な増加にはならないと考えている。南箕輪小学校が減少しながら南部小が増えていく。また、中学校は平成 34 年度 39 年度二つのピークが予想される。そのことを見通しながら、施設など考えていかなければならない。その他の意見交換の中では、不登校や経済的格差が学力に影響することはまずいことだと考え、何とかしていかなければならないと、私自身は強い思いを持っている。このことについても皆様のご意見をいただきながら進めていくことができれば、と考えている。今日は、どうか忌憚のな

いご意見をお願いしたい。

(2) 教育長

先日、三校研修会が行われ、朝カードを持ってラジオ体操に駆けつける姿、村の図書館やこども館で自分の好きなことに取組む姿から、こども達が夏休みになったんだなーと感じている。子どもの表情から和やかさを感じるのは私だけでしょうか…。今、村長が話されましたが、前は平成 28 年 7 月 27 日であり、約 1 年ぶりの総合教育会議。私にとっては、初めての会であります。教育委員会事務局では、本年度から、薄田学校教育専門員の配置をいただきました。各学校に入り子どもたち、職員、保護者支援を行ってきております。

本日は、学校教育関係が中心となりますが、宜しくお願い致します。

3 協議事項

(1) 給食センターについて (会議資料 1)

<教育長>

児童生徒数の推移(別資料参)について、お願いいたします。

平成 29 年度は、給食センターで 1407 食・アレルギー対応 32 食をまかっている。この表で見ると平成 34 年 1442 食、H39・40 年度でもうひとつのピークとなる。このピークを鑑みたときに、大体 1500 食を見込んでいく必要がある。

それを基に「村給食センター施設計画検討結果」(資料参)をお願いいたします。いくつかの案が検討されているわけですが、教育委員会としては、増改築を基本に今年度方向を決定して設計費用等を整えていくことを考えております。これらを踏まえながら、ご意見をいただきたい。

<村長>

児童生徒の推移を見ていただきたい。今 0 歳児が 166 名となっている。これくらいの数で推移していけばと思うが、1 歳児 182 名、2 歳児 194 名の年もある。この数は転入がないことでの数であり、転入を含め 170 名前後くらいで推移すればと考えるが、これだけは分かりません。今後を見据えたときに 1500 食を見ておけば大丈夫と思われる。

<教育次長>

南箕輪給食センター施設計画検討結果について資料 No1 を基に説明。「検討項目」及び「検討指標」「給食センター増改築に向けての現状課題・改善点」の説明。現センターを活用していく場合、給食提供が大きな課題。

<学校教育係長>

2 枚目の図は、7 月 26 日教育委員の現地視察での意見をまとめさせていただいた。

- ① 検収室<①>が狭いので拡張、害虫の侵入を見据えた改善。全面的に図面の
上段部に広げていくことが好ましいのではないかと。併せて配膳ホール<⑫>
も動線の兼ね合いを考慮して広げていきたいと考える。
- ② 下処理施設<②>は状況に応じて対応していく。<③>食品庫<④>倉庫

- ＜⑤＞米庫の部分も併せて進めていく。
- ③ アレルギー対応食については、専門の部屋を用意していく必要がある。
- ④ ＜⑥＞米飯の器械一式については図面の下側（東側）に移動し、開いたスペースを動線を考えて、釜等を据えていくことにより、スムーズな調理ができるのではないかと考える。
- ⑤ ＜⑩⑪＞については、子どもたちの通路を確保しながら東側に延ばし、車の入り口については北側にもっていく。
- ⑥ ＜⑮＞ボイラー室＜⑰＞休憩室については、全体を見ながら中 2 階のスペースが確保できればそこに更衣室も併せて設置できないかと考えている。構造上のこともあり専門家の意見をいただきながら検討が必要と考える。教育委員会・センターに勤務されている皆さんの意見を聞きながら専門的な知識を交えた設計のほうに固まった段階で進めたい。
- ⑦ センター長（南小校長）からは、子どもが通ることができるところは確保して欲しい。と願いが出されている。

＜教育次長＞

質疑・意見交換をお願いします。

＜南箕輪小学校長＞

給食の食材は搬入できるが、来校する教材屋さんはどうなるのか。子どもの歩くところの確保とともに考えて欲しい。

＜村長＞

子どもの安全対策とともに搬入路を確保したい、そうすることによって、3m近くは必要となる。東側に出る形となる。校庭はどうですか？

＜南箕輪小学校長＞

子どもたちの活動・体育等に関しては特に問題ないが、運動会等での保護者の場所が狭くなる。

＜清水委員＞

食器を返納する場所＜⑨＞が先日見たときに、高いところまで上げなければならぬ状況だがそのことについては？

＜学校教育係長＞

＜⑨＞の下膳ハッチは大間口にできればと考えている。そうすれば高くなくて済むと考える。廊下も広くする予定であり、そのことにより今の倍の広さとなり、子ども達の返却も今よりもスムーズになると思われる。

＜村長＞

いずれにしろ、現地改築でやっていかざるを得ないので、その辺はご理解をいただきながら、壁はどうするのか等いろいろなことを考えていかなければならない。設計委託を早めにして、専門家の意見を聞き結論を出していきたい。予定としては来年度設計発注可能ですか？

＜学校教育係長＞

可能です。方向が決まれば、今年後半でも可能です。あと予算との関係になります。

<清水委員>

工事期間の給食提供は？

<学校教育係長>

それが問題。1400食をどう確保するか。

<村長>

弁当対応も考えたが、それは難しいと考える。都会へ行けば給食がない学校もある。しかし、長年給食をやっているのもうまい。そのことについては、今から当たってみるということで、今から検討していかないと。

<教育長職務代理者>

1つの業者では難しい。品物によって分散させるとか、中学校分は〇へとかの検討が必要。

<村長>

そういう業者があるのか、費用はどれくらいかかるのか。調べる必要がある。改修は単費でやらざるを得ないので、夏休みにかけてやってもらう方向で。設計ができてみないと何ともいえない。年数は1年でも、年度をまたいでもよいので給食を提供できない期間を短くすることを大事に考えたい。

<教育次長>

学校給食センターについては、現地で改築することで検討していく。課題として、給食の提供と壁を抜くなど工事の時期等の検討が上げられます。

(2) 南部小学校増築について（会議資料2）

<教育長>

南部小学校が近い将来各学年35名を超え、2学級となってくる。各学年75名を超えることはないと思われる。資料より、32年度～34年度が通常級11クラス特別支援学級2計13学級、35年度に計14学級が必要となってくる。

<教育次長>

会議資料No2を基に説明。

南箕輪小学校は、29年度中の工事で家庭科室・図工室を普通教室、現在空いている放課後児童クラブ室を図工室・家庭科室として30年度から使えるようにしていく計画。また、中間教室を特別支援学級としていく方向。全部で35教室となる。必要教室数33であり、若干余裕が出てくると思われる。

南部小は、31年度までに2室増築予定ですが、35年度にはこのままでいくと1教室不足すると思われる。また、特別支援学級をどう見るかも係ってくる。

中学校ですが、昨年度生涯学習施設を作り使える教室が増えている。今後不足の状況も出てくると思われるが、その場合には、生徒会室・会議室を普通教室とし生涯学習施設2Fの資料室を、生徒会室・会議室としていく方向でいる。

南部小ですが平成8年度に開校し、今まで2回増築をかけてきた。東側と西側のほうへ2教室ずつ広げてきた。今後2教室増を考えたときに図の<①>のところはどうか、と考えている。<②>のところの案も出ているが、中2階的な形になってしまい林の中の通路がつぶれてしまうので<①>の方が望ましいのではない

かと考えられる。支援学級の今後が読めない話も出ていましたが、支援学級と多目的に使えるような施設を視野に入れて考えていきたいことを反映した図面となっている。また、図書館が1クラスの人数が入らなくなっているため、西側に広げていくことも構想に入れてある。

<教育長>

現在、教室数は11学級であり、35年度には14、今回2教室の増築にするか、3教室の増築にするかそのことに関しては？

<教育次長>

南部小は1クラスのスペースが広いので、今の様な広さの部屋を2部屋つくり、パーティションで3つに区切れるスペースとする構想がある。

<教育長>

その教室に支援級を置き、柔軟に使っていくことも考えているということでしょうか。

<学校教育係長>

はい、それが①でできたらと考える。図面より少し校舎寄りになると思われる。

<南箕輪小学校長>

騒音の関係もあり、クラスの区切りはしっかりやった方がよいと思う。現在の教室は、通常の普通教室の1.5倍位の広さで、とてもよいと感じている。そのよさを生かした形になればと思うが。

<清水委員>

パーティションの良さもあるが、やはり隣との区切りはしっかりした方がよいと思う。

<教育長>

支援級も2学級で間に合うかどうか、不透明。増築の教室を支援級で活用するか、通常級で活用するか。また平屋にするか2階建てにするか案を重ねていくということですね。

<村長>

今、特別支援は普通学級を使っているということですね。現時点の見通しとして、普通教室1、支援級2が不足という見方もできるわけですね。学年のまとめりも見なければいけない。理想的な学校を造りたいが、立場上財政も考えていかなければならない。

<教育長職務代理人>

増築の場合補助はあるのか？

<学校教育係長>

補助はあります。

<村長>

南部小は村としてもかなりかけてある。

設計は今年中にやるようになっていきますよね。場所だけ決めて、後は学校の意見・考えを聞いて進めていくということで了解をいただければ、と考える。将来300名を超えることを考えていきたい。

<教育次長>

本日の会では、一応<1>の案ということで、渡り廊下については検討。学校側の意見を聞きながらという方向で今年度中に設計まで行く、ということでまとめさせていただきます。

<教育長職務代理者>

今のまとめに加えて、今後、現状の支援級を含め、校内のレイアウトを計画的に考えていくことが肝要と思う。見通しを持って進めたい。

(3) その他

<教育次長>

次の協議事項(3)その他に入らせていただきます。①子育てに関する現状と課題についてお願いいたします。

① 子育てに関する現状と課題について (別添資料)

<教育長>

資料を基にしながら説明。学校内の中間教室ですが、南箕輪小学校に「ゆりの木」中学校に「わかたけ」、村としてこども館にある「中間教室」が子どものニーズに応じ支援を行っている。

各教室の実情について報告(略)。家庭から中間教室、小中学校の通常学級から中間教室等のアプローチがある。また、教育専門員を含め、小・中・村の中間教室連絡会を行っている。その会の中で、今の6年生が今後どう歩むのか等が、が話題となっている。不登校の児童生徒のサポートチームに、教育専門員、学校教育係長、SSW、SCがお子さんによって係っている。

教育専門員の動きについてですが、“学校支援”“学級支援”、“不登校支援”を行っている。担任サポート、校長懇談・保護者懇談などを含め、大きな力をいただいている。また、外部との関係も教育支援相談室との連携を中心に動いている。また、特別支援学校に在籍する生徒の副学籍について、個々のニーズの把握等担っていただいている。

<教育次長>

ご意見をお願いいたします。

<南箕輪小学校長>

学級に支援に入っていて、学級全体を見ている担任にはできない個別の支援を行っていただいたり、担任には見えないスフ方を担任に伝えていただいたりするなど、とてもありがたい。

また、学校と親御さんだけでは次の展開が図れないときに、間に入っていたり、同じ方向を描くことができたこともある。

<教育長職務代理者>

先日行われた3校研修で伝えたことですが、先生方が少しでもいいから“交換授業”を実践することについてお願いしたら、そのようなことは“考えてもみなかった”という言葉があった。担任の主観だけでは見えない子どもの姿を観る

のに「授業交換」は有効な手段と考える。是非、複数の眼で子どもの良さ見て、それを家庭に伝えるということが必要と思う。学校力だけでは難しい面が多々あるので、家庭力と合わせて子ども支援を行うために、意図的に導入して欲しい。また、Q-Uの活用など先生方が、危機感を持ち、不登校を増やさない取組みを願う。全職員が同じ方向を向き、全校一丸となること、富山県や新潟県への県外研修で学んだ「学級力の向上」等に取り組んで欲しい。取組み状況は？

<南箕輪小学校長>

不登校については、家庭環境・友達とうまくいかない等の要因が考えられる。基本的に3日休んだら担任が動くこととしている。担任・SC、子と親の相談員のサポートなど等、お子さんの状況に応じて柔軟な支援を行っている。また、3校で共通の学校生活上のルールを決めていくことはどうかと考えている。県外研修などの報告を学校でやっても分かるが、実践には生きない面もある。学校というより、村の子としてどうやっていくかの方向が出されると良いのではないかと思う。

<教育長職務代理者>

今回3校で「家庭学習の手引き」を作成し、3校で共有しながら実践しているように、基本的な学習のルール・学びの姿勢づくりを共有していくことも大事と思う。他県では加配は殆どいない。校長のリーダーシップのもと先生方の取組みへの期待を大きく持っている。

<教育長>

小学校における授業交換については、次年度から英語・外国語が増えるので、ひとつの切り口となると考える。中学校への接続を考えても大事なことと思う。

教育における格差についてどう考えているか。

<南箕輪小学校長>

格差というか、教育に対する考え方が多様化していると思う。

一概に経済的な格差は当てはまらないのではないか。親御さんの子育て観・生き方に対する格差が学校等における子どもの生活に現れているのではないか。

<教育長職務代理者>

タブレットについて、家庭での学習に活用している子とそうでない子で、学力差が生じる可能性がありはしないか。学校教育での活用（参：教育用PC1台あたりの児童生徒数3.6人に1台 文科省第2期教育振興基本計画）が望まれる。

<村長>

時代の中で、併せてやっていかなければならないと思う。村の財政問題でそういう部分でしわ寄せはしたくないと思う。

<教育次長>

情報教育の関係で3校の情報係りと事務局で会議を持ってきている。今出されたことも今後話題になってくると思われる。先ずは中学校のところに生涯学

習施設を整えた。今後、活用・学習のあり方、先生方のスキルアップなどなど取組んでいかなければならない。小学校についても、今後検討が必要。環境面・ICTの支援員なども考えていかなければならない。

<村長>

中学校は、何台入っているの？

<教育次長>

50台です。

<村長>

9人に1台程度ということですね。

<教育長>

自分の教室でできればということもありますが、クラスで生涯学習施設を活用しながらということを描いてきている。

<清水委員>

松阪市のように、機器について専門の人がいて動いていかないと教員だけでは難しさがある。授業づくりを含めてサポートが必要と思う。

<村長>

ICTを使いこなせるようにしていくことが大事。私などアナログ人間なので。ただ、アナログを大事にしなければならない面もあるのでは。不登校については、増やさない努力をしていくことが大事と思う。

<教育長>

話は変わりますが、来年度南箕輪小の放課後児童クラブで使用していた場所を、放課後子ども教室として活用できないか描いている。予算面・講師ボランティアなど課題があるが、中学校の放課後学習が位置づいてきているので、次は小学校と考えている。年度内に少しずつ動くことができたらと思う。

<村長>

中学校の必要性は分かるが、小学校高学年で中学校に向けてだろうと思うが、小学校のうちから必要なのかと思う。

<教育長>

小学校卒業までに必要な基礎学力の補完が大事と考えます。

<村長>

補完は大事と思うが、ボランティアだけでは難しくないか。人がいないのでは…。そこをどうしていくのか。

<教育長職務代理者>

タブレットの活用も1案。ドリル的なものはタブレットで自学できる。

<村長>

ボランティアで補えないところは、塾との提携も考えていかなければならない。予算はやむをえない。不登校を増やさないことにも通じる。

<教育次長>

お話いただいた中で、授業に向かう姿勢づくりを村内共有しての取組み、ま

た不登校については、基礎学力の定着などいろいろな角度からの取り組みを大事にしていく等、できること・考えることから取組んでいくことが大事と思う非常に大事なご意見・お考えをいただきました。

以上で、平成 29 年度総合教育会議を閉じます。

以上